天王寺舞楽

小野（おの）真龍（しんりゅう）著

▼46判・並製カバー・288頁　定価二、六四〇円

2024年4月刊行

大阪が千年にわたって伝承してきた「もう一つの、ほんとうの雅楽」。聖徳太子の願いのこもった、唯一無二の菩薩道の舞楽の歴史と文化をひもとく。

【目次】

序　東儀俊美先生の手紙

第一章　「天王寺楽人」の原像
重要無形民俗文化財「聖霊会の舞楽」――現存する雅楽伝統における「天王寺舞楽」／聖徳太子と伎楽／触穢――古代の天王寺楽人像／「散所楽人」の再解釈

第二章　『聖徳太子傳記』における天王寺楽人
――中世神話の天王寺楽人像
中世神話潮流における天王寺楽人像――『伝暦』から『傳記』へ／展開される「法音」の原理／『傳記』に基づく近世『聖徳太子伝記』の聖霊会観

第三章　天王寺楽人の祖先神「秦河勝」とは何者か
秦氏と「散楽」／神となる秦河勝／秦氏と多氏の親密な関係――多村秦庄と円満井座／天王寺楽人の河勝崇敬

第四章　躍動する中世天王寺楽人
「都にはぢず」――『徒然草』が語る天王寺楽人／厳島神社の舞楽と天王寺舞楽／中央の舞楽の衰退と天王寺楽所の地方伝播

第五章　三方楽所体制下の天王寺楽人
「天正の楽道取り立て」における天王寺楽人の変移／形成される三方の共演体制／制度の一角としての天王寺楽所／四辻家による三方楽人統制

第六章　近世の「聖霊会」
連星としての四天王寺「涅槃会」と「聖霊会」／江戸期聖霊会の次第（1）壮麗な冒頭の御幸と舞台前庭儀／江戸期聖霊会の次第（2）舞楽四箇法要の理念型／令和四年に復興された聖霊会の「大行道」

第七章　近世天王寺楽人の生態
「蘇利古」と「京不見御笛」／「京不見御笛」を廻る争い／「抜頭」伝承についての騒動／住吉大社と天王寺楽所

第八章　雅亮会への「秦姓の舞」の継承
明治維新期の雅楽界大変動――宮廷雅楽からの仏教排除／明治十二年の聖霊会復興と「雅亮会」の創立／小野樟蔭への天王寺舞楽伝授

第九章　天王寺舞楽の本質
明治以前の天王寺舞楽はそのまま伝承されているのか／「秦姓の舞」（天王寺舞楽）の舞態とは／天王寺舞楽の思想的根底――『大樹緊那羅王所問経』の構成／大乗仏教の音楽思想の原型／菩薩道への感応

注
天王寺舞楽年表
あとがき

◆著者略歴

小野真龍（おの しんりゅう）
一九六五年、小野妹子の八男多嘉麿が開基であり、雅亮会の事務所が置かれる大阪木津の願泉寺に生まれる。幼少より四天王寺「聖霊会の舞楽」の童舞の舞人を務め、天王寺楽人の道へ。京都大学文学研究科博士課程（宗教学）を修了。宗教哲学の研究で京都大学博士（文学）となり、一九九三年より天王寺舞楽を伝承する雅亮会の会員。現在は、浄土真宗本願寺派願泉寺住職、天王寺楽所雅亮会理事長（一般社団法人雅亮会代表理事）、一般社団法人雅楽協会代表理事、関西大学客員教授（二〇二四年三月まで）。関西大学大学院、龍谷大学大学院で、雅楽の背景をなす日本思想や、仏教音楽論、宗教儀礼論を講じている。主な著書に『ハイデッガー研究』（京都大学学術出版社：日本宗教学会受賞）、『雅楽のコスモロジー――日本宗教式楽の精神史』（法藏館）がある。

ご注文はFAX：075-371-0458

法藏館
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp　info@hozokan.co.jp

仏教・芸能

注文書

（書店印）

ご担当　　様

冊

法藏館

定価　二、六四〇円

小野真龍著
天王寺舞楽（てんのうじぶがく）

ISBN:978-4-8318-6286-0　C1015

ご住所
お電話
お名前

20240222